

香川高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	化学Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	1022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科 (2018年度以前入学者)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新編化学 数研出版 (104 数研 化学/314)					
担当教員	中村 篤博					
到達目標						
1. 電池・電気分解の仕組みを理解し、それらの量的関係を計算することができる。 2. 気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解し、計算問題ができる。 3. 化学実験の正しい手順を踏み、安全により精度の高い実験をすることができる。 4. 溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、各種計算問題を解くことができる。 5. 蒸気圧降下を理解し、それに伴う現象について説明や計算ができる。また、浸透圧について理解している。 6. 熱化学方程式をたて、それを解くことができる。 7. 簡単な系での化学反応速度式を立て、計算することができる。 8. 各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	電池・電気分解の仕組みを詳細に理解し、それらの量的関係を計算することができる。		電池・電気分解の仕組みを理解し、それらの量的関係を計算することができる。		電池・電気分解の仕組みを理解しておらず、それらの量的関係を計算することができない。	
評価項目2	気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について詳細に理解し、計算問題ができる。		気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解し、計算問題ができる。		気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解しておらず、計算問題ができない。	
評価項目3	化学実験の正しい手順を踏み、安全により精度の高い実験をすることができる。質の高い報告書を作成することができる。		化学実験の正しい手順を踏み、安全により精度の高い実験をすることができる。		化学実験の正しい手順を踏むことができない。安全により精度の高い実験をすることができない。	
評価項目4	溶解の仕組みと溶液の性質を詳細に理解し、各種計算問題を正確に解くことができる。		溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、各種計算問題を解くことができる。		溶解の仕組みと溶液の性質を理解しておらず、各種計算問題を解くことができない。	
評価項目5	蒸気圧降下を理解し、それに伴う現象について詳細に説明や計算ができる。また、浸透圧について詳細に理解している。		蒸気圧降下を理解し、それに伴う現象について説明や計算ができる。また、浸透圧について理解している。		蒸気圧降下を理解し、それに伴う現象について説明や計算ができない。また、浸透圧について理解していない。	
評価項目6	熱化学方程式を正確につくることができ、それを正確に解くことができる。		熱化学方程式をつくることができ、それを解くことができる。		熱化学方程式をつくることができない。また、与えられた方程式を解くことができない。	
評価項目7	簡単な系での化学反応速度式を立て、正確に計算することができる。		簡単な系での化学反応速度式を立て、計算することができる。		簡単な系での化学反応速度式を立て、計算することができない。	
評価項目8	各種有機化合物の性質を詳細に理解し、構造式の決定ができる。		各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。		各種有機化合物の性質を理解しておらず、構造式の決定ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	酸化還元反応の応用として電池・電気分解を理解する。物質の状態変化によって起こる諸現象について理解し、気体・溶液・熱化学・反応速度といった物理化学の一般論を把握する。有機化学では、有機化合物の体系的把握をし、その性質が主として各種官能基、結合、分子構造によることを理解する。また、実験を通して、既習の化学知識の実体験と実験技術を習得する。					
授業の進め方・方法	教科書と配布プリントを中心に基礎概念・理論を簡潔に解説する。その後、演習の機会を与え、理解を深めることができるように進める。化学基礎の復習の機会も設ける。また、実験を行うことで、講義で扱った内容を体験するとともに、結果等をレポートとしてまとめる。					
注意点	定期試験を75%、提出物を25%で評価する。前期総合と後期総合の平均を学年総合とする。オフィスアワーは、原則として火曜の放課後とする。試験には、マークシートを用いることがある。化学基礎総合演習は、非常勤講師が担当する。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電池・電気分解とその量的関係(1)	電池・電気分解の仕組みを理解する。D1:1-3, D3:1		
		2週	電池・電気分解とその量的関係(2)	電池・電気分解の仕組みを理解する。D1:1-3, D3:1		
		3週	電池・電気分解とその量的関係(3)	ファラデーの電気分解の法則を理解し、簡単な反応に適用できる。D1:1-3, D3:1		
		4週	電池・電気分解とその量的関係(4)	ファラデーの電気分解の法則を理解し、簡単な反応に適用できる。D1:1-3, D3:1		
		5週	気体の体積と気体の状態方程式 (1)	気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解し、計算問題ができる。D1:1-3, D3:1		
		6週	化学実験①	中和滴定と電気分解の基礎知識を持ち、実験時の事故への対処方法を理解している。また、試薬の調整ができ、測定と測定値の取り扱いができる。D1:1,3, E1:1,2		
		7週	化学基礎総合演習①	1年で履修した、化学基礎の総合的な問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1		
		8週	化学実験②	測定結果から、正しく計算し、理論値との比較を行い、その誤差について考察できる。D1:1,3, E1:1,2		

後期	2ndQ	9週	前期中間試験	電池・電気分解の仕組みとその計算、簡単な気体の計算をすることができる。また、気体の各種計算ができる。D1:1-3, D3:1
		10週	答案返却・解答	電池・電気分解の仕組みとその計算、簡単な気体の計算をすることができる。D1:1-3, D3:1
		11週	気体の体積と気体の状態方程式 (2)	気体の法則に基づく温度、体積、圧力の関係について理解し、計算問題ができる。D1:1-3, D3:1
		12週	混合気体の圧力, 実在気体(1)	混合気体の体積や圧力などの計算をすることができる。D1:1-3, D3:1
		13週	混合気体の圧力, 実在気体(2)	混合気体の体積や圧力などの計算をすることができる。D1:1-3, D3:1
		14週	溶液(1)	溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、計算問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		15週	前期末試験	気体、溶液について身近な現象の理解と各種計算問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		16週	答案返却・解答	気体、溶液について身近な現象の理解と各種計算問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
	3rdQ	1週	溶液(2)	溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、計算問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		2週	溶液(3)	溶解の仕組みと溶液の性質を理解し、計算問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		3週	熱化学方程式 (1)	化学反応における量的な関係と反応熱を理解し、熱化学方程式を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		4週	熱化学方程式 (2)	化学反応における量的な関係と反応熱を理解し、熱化学方程式を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		5週	化学反応の速さとしくみ・化学平衡 (1)	化学反応を起こすための仕組みを理解し、反応速度を変えるための条件を説明できる。D1:1-3, D3:1
		6週	化学実験③	無機化学反応により沈殿を作り、ろ過することで物質を分離する。現象を理解し、実験器具を、目的に応じて選択して、使うことができる。D1:1,3, E1:1,2
		7週	後期中間試験	熱化学、反応速度の計算、仕組みについて問題をとくことができる。D1:1-3, D3:1
		8週	答案返却・解答	熱化学、反応速度の計算、仕組みについて問題をとくことができる。D1:1-3, D3:1
	4thQ	9週	化学反応の速さとしくみ・化学平衡 (2)	化学反応を起こすための仕組みを理解し、反応速度を変えるための条件を説明できる。D1:1-3, D3:1
		10週	化学実験④	コロイド実験や有機化学検出反応により、変化を観察し、原因について考察することができる。D1:1,3, E1:1,2
		11週	有機化合物 (1)	各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。D1:1-3, D3:1
		12週	有機化合物 (2)	各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。D1:1-3, D3:1
		13週	有機化合物 (3)	各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。D1:1-3, D3:1
		14週	化学基礎総合演習、実力試験	化学基礎の総合的な問題を解くことができる。D1:1-3, D3:1
		15週	後期末試験	各種有機化合物の性質を理解し、反応速度式の扱い、各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。D1:1-3, D3:1
		16週	テスト返却	反応速度式の扱い、各種有機化合物の性質を理解し、構造式の決定ができる。また、各種有機化合物間の関係について理解している。D1:1-3, D3:1

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3	前5
				気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3	前5,前11,前12,前13
				中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3	前6,前7,前13
				中和滴定の計算ができる。	3	前6,前7,前13
				ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	前1,前2
				鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	前1,前2
				一次電池の種類を説明できる。	3	前1,前2
				二次電池の種類を説明できる。	3	前1,前2
				電気分解反応を説明できる。	3	前3,前4
				電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	前3,前4
				ファラデーの法則による計算ができる。	3	前3,前4

		化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	前6,前8,後6,後10
				事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	前6,前8,後6,後10
				測定と測定値の取り扱いができる。	3	前6,前8
				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	前6,前8
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	前6,前8,後6,後10
				ガラス器具の取り扱いができる。	3	前6,前8,後6,後10
				基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3	前6,前8,後6,後10
				試薬の調製ができる。	3	前6,前8,後6,後10
				代表的な気体発生の実験ができる。	3	前8
				代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3	後6

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	0	0	0	25	0	100
基礎的能力	75	0	0	0	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0